

沖縄復帰50周年記念 国道事業パネル展を開催しました!

～国道整備50年の変遷について紹介～



令和4年5月15日、沖縄の本土復帰(昭和47年)から50年の節目を迎えました! 沖縄の本土復帰の歴史を振り返るとともに、これまで沖縄総合事務局の国道事業が果たしてきた役割や整備の歴史について紹介する「国道事業パネル展」を道の駅「許田」と道の駅「豊崎」、沖縄県庁1階県民ホールで開催しました!(令和4年4月28日(木)～5月31日(火)まで)
また、沖縄県が整備してきた県道の変遷についても併せて展示しました。
本稿では、パネル展の一部をご紹介します!



国道58号 名護「七曲り」数久田付近



昭和48年頃
「七曲り」は大きなカーブ7つ、大小含め40以上のカーブで蛇行した交通の難所でした。



令和3年
沖縄国際海洋博覧会(S50年)に合わせ4車線へ拡幅。名護東道路開通(伊差川～数久田)、道の駅「許田」のリニューアル。(R3年)

国道58号 大宜味村塩屋付近



昭和38年頃
「赤橋」と呼ばれ親しまれた旧塩屋大橋。完成当時は赤色ではありませんでした。



平成11年
奥に見える「赤橋」の老朽化のため、現在の新塩屋大橋へ架け替え。(H11年)

国道58号 国頭村宜名真付近



昭和35年頃
昭和53年頃
宜名真と辺戸を結んでいた現道には、「戻る道」という交通の難所がありました。



令和4年
当時は県の管理区間でしたが、権限代行で宜名真トンネルを整備。(S58年)

国道58号 那覇市旭町付近



昭和54年頃
交通方法変更後の旭橋交差点の様子。



令和3年
再開発により、交通結節点となっている現在の様子。バスターミナルが再整備され、モノレール駅はペデストリアンデッキでつながり、県立図書館や商業施設の利用が便利に。

国道58号 那覇市前島付近



昭和47年頃
730(ナナサンマル)交通方法変更前の前島付近の様子。車が右側を走る。



令和4年
未整備だった歩道や中央分離を整備。

パネル展の様子



道の駅「許田」



道の駅「豊崎」